日本初のユニバーサルシアター「CINEMA Chupki TABATA（シネマチュプキタバタ）」

いのちの声、いのちの振動を感じる

平塚千穂子

バリアフリーの映画館を

加齢に伴い、目や耳が不自由になっても、あきらめることなく楽しめることが増えたら、素敵だと思いませんか？　私は、目の不自由な方々とともに映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりに取り組むボランティア団体City Lightsを、２００１年４月に設立しました。チャップリンの「街の灯」の感動を、視覚障碍者にも伝えたいという無謀な試みからのスタートでしたが、思いの外、目の見えない方々が「映画を観たい」と思っていることを知り、驚いたとともにカルチャーショックを受けたのがきっかけとなりました。

それまでは、ボランティアとは無縁でしたが、当時、映画館で働いていた私は、素晴らしい映画を何本も観ることのできる環境にありました。だから、目が見えないというだけで、映画を味わうことができない視覚障碍者の人たちがいることを知って、何とかならないだろうか？と思ったのです。そして、いろいろ調べてみたところ、アメリカでは１００館以上の映画館に、視覚障碍者が場面解説（音声ガイド）を聴くためのヘッドフォン設備があり、公開と同時に最新映画を鑑賞しているという事実を知りました。それなのに、日本では、そのような映画館はまったくなかったのです。そこで私は思いました。「無いなら自分たちで創るしかない！」と。

音声ガイドをつくる

しかし、見せることに重きをおいてつくられている映画を、目の見えない人に、言葉で説明するというのは、そう生半可なことではありません。最初は、視覚障碍者に映画の場面情報を伝えるための、「音声ガイド」の研究から始めました。「音声ガイド」とは、セリフの合間や場面転換の隙間に挿入する場面説明のことで、時や場所、人物の服装や動き、表情、情景描写などを説明、テレビドラマの副音声に似たものです。

「音声ガイド」は、映画を何度も繰り返し、見て「この動きをどう説明しようか。」「この形をどう表現しようか？」と推敲しながらつくっていきます。ですから、「音声ガイド」をつくるためには、まず、その映画

をよく理解しなくてはなりません。演出・構図の意図、役者の芝居まで、シナリオなどの資料を参考にして、深く、分析しながら見るようになります。それに、言葉の知識も広がります。「音声ガイド」は、視覚障碍者の方々とも意見交換しながらつくるのですが、書いてわかる言葉と聴いてわかる言葉の違いや、人が言葉から想像するものの違いについて、深く考えさせられます。

ユニバーサルシアター誕生！

そして、活動をはじめて15年目の2016年9月。障碍の有無に関わらず、誰もがあたりまえに安心して映画を楽しむことができ、映画を通じて心の交流ができる、そんな映画館のモデルとなるような、ユニバーサルシアターを創る！という、大きな挑戦にふみだしました。

映画館をつくるなんて一生に一度のこと。長年活動を続けてきた、視覚障碍者のための音声ガイドだけでなく、聴覚に障碍のあるかたには、日本映画にも字幕をつける。小さなお子さんを連れたかたや発達障碍のお子さんにも安心して映画を鑑賞できる完全防音の親子鑑賞室や、スクリーンが見やすい位置に車椅子スペースを設置するなど、多様なお客さまが安心してくつろげるアットホームな映画館にしたいという想いに、531名ものかたが賛同してくださり、1800万円の設立資金が集まって、日本初のユニバーサルシアター「シネマ・チュプキ・タバタ」は、みなさまに建てていただきました。おかげさまで、開館から2年の月日が経ち、障碍のあるかたのみならず、お子さんからご高齢のかたまで足を運んでくれます。昨年亡くなられた樹木希林さんをはじめ映画界の著名な方々にも応援していただき、実にさまざまな人々と交流してきました。目が見えない人は、いのちの声をよく聴いています。耳の聴こえない人は、いのちの振動をよく見つめています。映画をさまざまに感じてみることで、映画の味わいが変わったり、さらに深まったり。ますます映画の面白さが広がることを、多くのかたに知ってもらい、映画館の新たな可能性も感じました。「チュプキ」はアイヌ語で「自然の光」を意味します。ここを訪れると、ありのままの自然の光に還り、心のつながりを感じられる。小さくても日本一あたたかくて優しい映画館づくりを続けていきたいと思います。

機材の貸出や音声ガイドのオペレーション等、バリアフリー上映をサポートする。

お問い合わせは、
東京都北区東田端2-8-4
URL：http://chupki.jpn.org

ひらつか・ちほこ＝1972年東京都生まれ。早稲田大学教育学部教育学科卒業。2001年4月、City Lights を設立し、映画館「早稲田松竹」を退職。以後、視覚障碍者の映画鑑賞環境づくりに従事。2003年第37回 NHK障害福祉賞優秀賞 受賞。2016年第24回 ヘレンケラー・サリバン賞を受賞。

生涯学習の時代をひらく

月刊社会教育

2

2019 No.753

【特集】

超高齢社会を生きる学び

かがり火 どの年代も生き甲斐をもつ社会を　中村桂子

100歳インタビュー＝大田堯さんに聞く
生きることは学ぶこと 学ぶことは生きること

◉少子高齢社会と公民館　山本秀樹

●金沢くらしの博物館における回想法への取り組み　東條さやか

●千葉・公民館で取り組む認知症カフェ　中村亮彦・林　英一

●認知症にやさしい図書館をめざして　呑海沙織

コラム

東京・荒川区「尾竹橋公園スカイハイツ園芸クラブ」　高橋貴代司・増谷順子

日本初のユニバーサルシアター「CINEMA Chupki TABATA」
平塚千穂子

デンマーク・フォルケホイスコーレ　関根ハンナ

● シリーズ　暮らしと表現空間⑩
生活に根ざした短歌表現の世界　飯塚哲子

● シリーズ　障害者青年学級はいま⑥
卒業後の人生をより豊かに　辻　正